

平成 29 年度小中一貫教育構想（よつば学府）

1 基本構想

2030 年頃は、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新により、社会構造や雇用環境は大きく変化し、職業の在り方も現在と様変わりするという。子供たちは、このような変化に主体的に向き合い、よりよい社会と幸福な人生を自ら切り拓くために必要な資質・能力を獲得することが求められる。

学校においては、子供たちが、「何を知っているか」だけではなく、「知っていることを使って、人や社会のために進んでかかわり、よりよい人生を送る」ことができるよう、様々な場面で活用できる知識・技能を身に付けることや、それらを活用して問題を解決していくために必要な思考力や判断力、表現力、さらには学びに向かう力、人間性など情意や態度に関するものを養うことが重要となる。

こうした時代の要請に鑑みると、本学府では、人へのかかわりが苦手であったり、失敗を恐れて消極的になったりするなど、学校生活を前向きな気持ちで積極的に取り組んでいこうとする姿勢や意欲が必ずしも十分ではない子供たちが見受けられる。このような内面的弱さを克服し、学習課題や疑問などに進んで他者とかかわりながら解決していく主体性を引き出すことが必要である。さらに、主体性を育てながら、深い理解につながる学びを実現し、実生活や実社会に広く適用できる力を育成していかななくてはならない。

子供の内面的な弱さを克服し、他者へのかかわる力を高め、集団の中でも自分を存分に発揮できるようにするためには、一人一人が確かな信頼関係を形成することが肝要である。信頼の形成は、共に生活し学ぶ仲間への信頼と相まって形成されるものであり、「自己及び他者への信頼構築」を、学府教育を進める上での一つの機軸とする。

また、子供の興味・関心を引き出す問いやその解決に全員参加したくなる仕組み、学習の見通しや振り返り、さらには発達段階に応じて、経験則や既存の知識と学んだ知識とをつなぐなどの対話的な学びの過程がある学習環境のもと、「深い学びによる資質・能力の育成」をもう一つの機軸として学府教育を推進していく。

以上のことから、学府教育目標、機軸、めざす子供の姿を次のとおり定める。

2 学府教育目標

「グローバル化時代をたくましく生き抜く力の育成」

3 学府教育の機軸

- 「よつばの理念に向かう自己及び他者への信頼構築」
- 「深い学びによる資質・能力の育成」

4 めざす子供の姿

- 知識・スキルを活用する子供
- 英語でコミュニケーションをとる子供
- 積極的に社会にかかわる子供
- 郷土を愛する子供

5 学府内の組織

① 学府役員会（校長、事務局長）

年間1回位置付ける。学府教育構想の共通理解、校内人事、年間計画の確認を行う。

② 学府推進委員会（校長、教頭、コーディネーター、*事務職員）

年間6回位置付ける。学府教育目標の実現のため、学府教育計画の立案、調整及び研修の企画・運営を行う。次年度へ向けての評価・改善を行う。

③ 学府協議会（協議会委員：有識者、自治会長、PTA会長、地域役員等、学府推進委員）

年間2回位置付ける。学府教育について意見を出したり、地域からの要望を学府長や各学校長に伝えたりしながら、教職員と協働で児童生徒の成長を支える。

④ コーディネーター会（コーディネーター）

月2回程度、基本的に水曜日の5校時に位置付ける。学府推進委員会での決定事項をもとに、各実践の具体的な計画立案・運営を行う。また、各学校の連絡役となり、教職員との共通理解や調整を図る。

⑤ 対話推進部（各校对話推進委員）

対話活動（コミュニケーション・トレーニング）について各校の推進役となる。各校における児童生徒、教職員への共通理解、日常の対話活動の準備・運営、データの蓄積を行う。各学年や学年部に推進委員を置き、運営する。また、年6回程度コーディネーター会とともに打合せを行う。

⑥ 養護教諭部（各校養護教諭）

学府教育構想に基づいた学府学校保健委員会（年1回）、各校学校保健委員会（年1回）を企画、運営をする。

⑦ 授業交流部（英語部・各教科など）

中学校教員が小学校への乗り入れ授業を行うための準備、運営を行う。

⑧ 研修部（各校研修主任）

年4回、研修部会を位置付ける。学府教育構想をもとに校内研修の計画を立て、教員が共通理解を図りながら、各校で実践を進めていく。

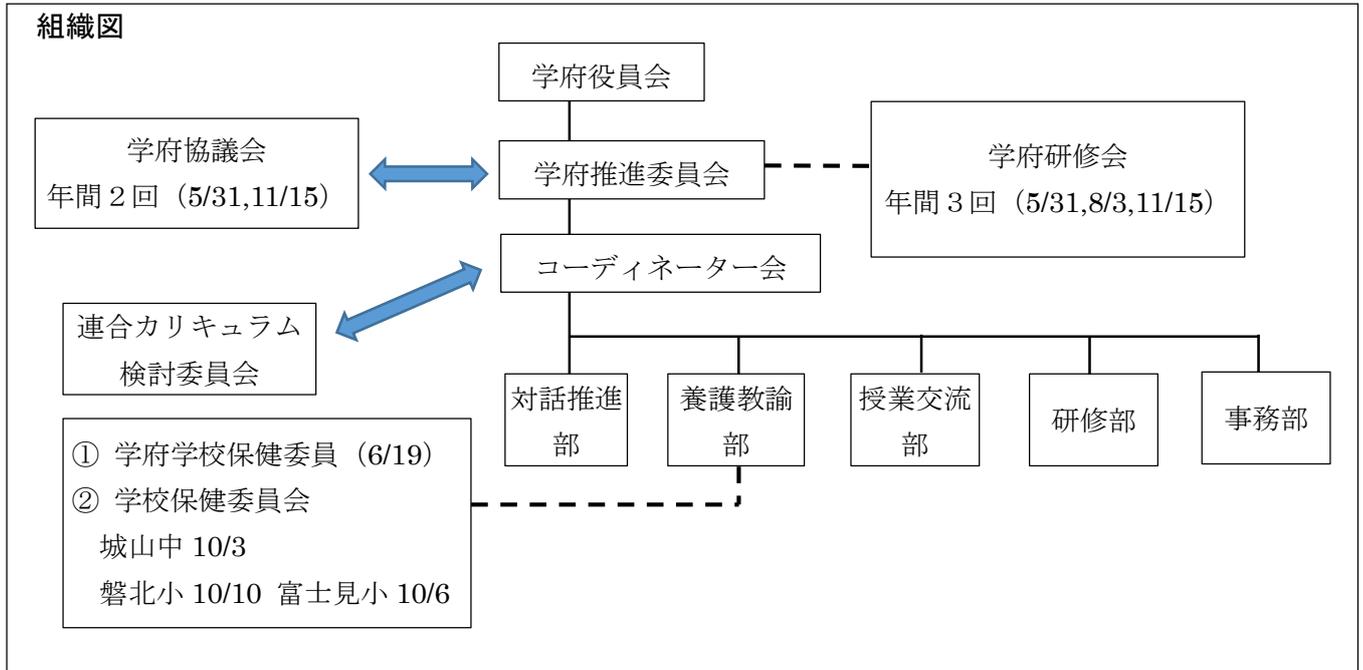
⑨ 連合カリキュラム検討委員会（コーディネーター、主幹教諭、教務主任、英語科担当）

年間1回位置付ける。城山中学校には東部小の一部の生徒が入学するため、みやのもり学府との教育計画について調整を図る。また、小学6年生の外国語活動のカリキュラムを統一し、入学時の既習内容における差が出ないように努める。

⑩ 事務部

学府連携が円滑に進み充実した活動となるために、予算計画や執行の面で支える。

組織図



6 共通実践内容

(1) 対話活動（コミュニケーション・トレーニング）の進化

- ①受容、共感、質問ができるよい聴き手の育成を目指し、すべての教員は対話活動を行うことができる。
- ②「聴くことアンケート」において、児童・生徒の意識の変容を追跡する。
- ③対話活動（コミュ・トレ）におけるめざす姿を明確にする。

(2) 深い学びに向かう単元（題材）の研究

- ①単元（題材）を貫く問いを追究する。
- ②思考を支える見方・考え方を追究する。

(3) 各種アンケート調査の実施と分析

- ①きくことアンケート（12月上旬）
- ②学校評価アンケート（11月下旬）
- ③職員アンケート（学府研修会ごと）

(4) その他

- ①全国学力・学習状況調査の分析と活用

7 主な学府研修計画等

(1) 学府研修会（年間3回）・学府協議会（年間2回）

- ①第1回研修会・学府協議会（5月31日）会場：城山中学校
・全体会、講演会
- ②第2回研修会（8月3日）会場：見付交流センター
・全体会、教科部会
- ③第3回研修会・第2回学府協議会（11月15日）会場：城山中学校
・全体会、実践報告会

(2) よつば学府学校保健委員会（6月19日）会場：城山中

(3) 授業公開ウィーク（城山中：6/5～9、磐田北小：6/19～23、富士見小：6/12～16）

(4) 中学生による学校説明会（磐田北小：6/6、富士見小：6/8）